

■生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では記述問題の正答率が全国平均を下回り、無回答率が高い。数学では自分の考えを説明する問題の正答率が全国平均を下回り、無回答率が高い。英語ではスピーキングが全国平均より低い傾向。
○意欲的に学習に取り組む生徒が多いが、課題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを説明することについては、苦手な生徒が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○基礎基本の定着に課題のある生徒に対する効果的な授業形態や指導法について工夫する必要がある。
○自ら学ぶ生徒の育成や読み解く力や説明する力の育成をめざした指導を工夫する必要がある。
○本時のめあてが達成できたかを振り返る時間がなかなか取れない。
○ICT機器を活用した授業の研修をいかして積極的に実践していく必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○2020年度から導入される大学入学共通テストや2021年度から全面実施される学習指導要領の理念を受け止め、これからの社会を生き抜ける学力を生徒に身に付けさせていく。
○特に、教科書や資料を読み、理解し、考え、判断し、自分の言葉で表現し、伝えていく力を高めていく。そのためにも書く機会や話し合う機会を増やしていく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○各教科の授業において、学習課題の設定からまとめ・振り返りに至る学習の流れが明確になるよう工夫し、課題解決に必要な力の定着を図る。	○各教科の特性を踏まえながら、グループによる学び合いの場面や互いの意見を交換し、共有する活動を積極的に取り入れていく。	☆本時の具体的な目標を導入の中で提示し、生徒が目標に対して振り返る時間を毎時間設定する。

☆は、学びのエリアで共通

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○チャイム前着席を守る。 ☆授業の開始と終わりは全員そろってあいさつをする。 ○お互いの「学ぶ権利」を守る。 ○先生または他の生徒の発言は私語をせずに、しっかり聞く。 ○間違った答えに対するからかいは決してやってはいけない。	○全学級でICT機器を効果的に活用する。 ○教室環境のユニバーサルデザインに努め、ロッカーカーテンやミニホワイトボードなど教室環境を整備する。 ○英語科と社会科の教科教室と新図書室を設置。 ☆特別な支援が必要な生徒に対して、小中が連携して、その生徒に応じた指導ができるように環境を整えていく。	○指導力向上研究推進校として、「自ら学ぶ生徒の育成」～学力向上に向けた「読み解く力」の育成～を研究テーマとして、研修委員会を中心に、OJTを推進し、教員の指導力向上を図る。 ☆「読み解く力」の育成については、学びのエリアで共通に取り組んでいく。 ○ICT機器を活用した授業の研修をいかして積極的に実践していく。 ○福井大学教職員大学院に教員を派遣し、教員の研修機会を充実する。

☆は、学びのエリアで共通